

内閣総理大臣
野田 佳彦 殿

一川防衛大臣の即時更迭を要求する申し入れ

一川保夫防衛大臣は去る 12 月 1 日、参議院東日本大震災復興特別委員会で 1995 年に起きた米兵による「少女暴行事件」の中身について問われ、「正確な中身を詳細に知らない」との国会答弁を行った。後に、一川大臣は「国会の公式な委員会の場で詳細に説明する事案ではないと思ひ、ああいう発言になってしまった」と釈明しているが、「詳細」を知っていれば、係る発言には至らなかったはずである。

「少女暴行事件」は、普天間飛行場移設問題や日米地位協定の改正要求など、今日の沖縄の基地問題の端緒となった悲惨極まりない重大事件である。一川大臣の認識は、あまりにも浅はかである、と批判せざるを得ない。

また、一川大臣は 12 月 2 日、田中聡前沖縄防衛局長による女性を冒瀆し、沖縄県民を侮蔑する発言を謝罪するために来県した際、「今回の発言で、大変大きな荷物を背負うことになった」と述べた。その一方で、「県内にもたくさんの防衛施設や防衛省、自衛隊の職員もいるので、任務に悪影響のないように責任を果たしていく」とも語っている。

一連の一川大臣発言は、防衛省職員や自衛隊員に向けられており、明らかに「内向き」で自己保身的である。沖縄県民や女性の心痛に思いを寄せ、心から謝罪しようとの念を感じ取れない。

以上のことをもってしても、もはや一川防衛大臣に、沖縄の基地問題をはじめとするわが国の安全保障政策・防衛政策の重責を任せるわけにはいかない。防衛大臣職を続ける資格がないと厳しく指摘せざるを得ない。

にもかかわらず、野田総理は一川大臣を庇い、更迭を否定する国会答弁を繰り返している。一川大臣も「職責を全うしたい」と辞任する考えがないことを強調するばかりだ。私たち沖縄県選出・出身国会議員としては、県民の尊厳と民意に照らし、とても承服できるものではない。

よって、野田総理大臣におかれては、一川防衛大臣を即時更迭するよう強く申し入れるものである。

2011 年 12 月 8 日

衆議院議員 下地 幹郎
(国民新党)

参議院議員 糸数 慶子
(沖縄社会大衆党)

衆議院議員 照屋 寛徳
(社会民主党)

参議院議員 島尻安伊子
(自由民主党)

衆議院議員 赤嶺 政賢
(日本共産党)

参議院議員 山内 徳信
(社会民主党)